

令和5年（2023年）10月16日

日本山村硝子株式会社

近畿大学

## ペットボトルキャップの分別回収における 人の行動変容を促す共同研究を開始

近畿大学経営学部（大阪府東大阪市）商学科教授 廣田章光ゼミと、日本山村硝子株式会社（兵庫県尼崎市 代表取締役 社長執行役員：山村幸治）（以下：日本山村硝子）は、回収が進んでいないペットボトルキャップの分別回収における人の行動変容を促す共同研究を開始しました。

廣田章光ゼミでは、デザイン思考やマーケティング手法を駆使した様々なアイデアの創出とその解析を行っています。また、日本山村硝子は、年間約30億個以上のペットボトルキャップを生産販売しており、使用済みペットボトルキャップのリサイクルに取り組んでいます。

今回の共同研究は心理的要因・導線・形状・PRなどにより、ペットボトルキャップを分別するようになる、人の行動変容についての研究を行います。分別回収へつながる行動の変化を検証し、研究成果の実装によりサイクルの仕組みを作り、サステナブルな社会の実現に貢献して参ります。

また、今回開発した「キャップ回収BOX」のプロトタイプを、近畿大学デザイン・クリエイティブ研究所主催の「プロト・フェス」（2023年10月20日、21日：近畿大学 東大阪キャンパス）に出展予定です。

### 1. 本件の背景

ペットボトルのリサイクルの仕組みは一定の水準で確立しており、リサイクル率は令和3年度（2021年度）で86%※と高水準にあります。しかし、それとは対照的に、ペットボトルキャップについてはその回収実態の把握もされておらず、回収率は極めて低いといわれています。今回の共同開発は、ペットボトルとペットボトルキャップの分別廃棄を促進しペットボトルキャップの回収率向上をめざすものです。

※ 出典：PETボトルリサイクル推進協議会のホームページより

### 2. 本件の内容

近畿大学経営学部 廣田章光ゼミ（マーケティング、デザイン思考）と日本山村硝子は、2022年10月から、東大阪キャンパスでの学生の使用済みペットボトルを捨てる行動の観察調査を繰り返し実施してきました。観察調査の一環で実施したアンケートでは、大半がペットボトルキャップをつけたままペットボトルを廃棄していることが明らかになりました。これは、世の中の人々の行動と同様の状況だと思われます。

そこで、観察調査から得た情報を基に、キャップを分別する行動変容を促すアイデアを創出し、「キャップ回収BOX」のプロトタイプを作成しました。今後、キャンパス内で実証実験と解析を進め、商業施設等での実装に結び付けたいと考えております。

**【本件に関するお問合せ先】**

日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニー 担当：千葉隆宏

TEL：06-4300-6321 FAX：06-4300-6388

E-mail：[chiba\\_t@yamamura.co.jp](mailto:chiba_t@yamamura.co.jp)